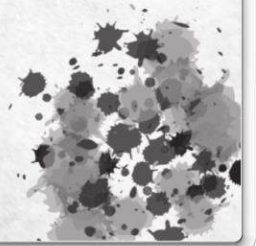


ハンナ・アーレント

～ 無知は罪となりうる ～



時代背景

本日勉強するのは「ハンナ・アーレント」(Hannah Arendt/1906-1975年)です。おそらくほとんどの生徒が聞き馴染みがないのではないかと思います。

最初に聞きますが、みなさんは普段から【思考】していますか？先生や保護者から当たり前のように指示をもらい生活していないでしょうか？先生の言ったことが必ず正解だと思っていないですか？アーレントはこうした【思考】をしていない人に強く響く人物だと思い今回取り上げてみることにしました。

時代は20世紀中ごろ、ドイツではヒトラーが台頭し、ユダヤ人に対する集団虐殺[]を行いました。そこでユダヤ人として生まれたアーレントが、ドイツのナチス・全体主義の研究を行い、ホロコースト(集団虐殺)にいたる背景を哲学的視点から考察しています。アーレント哲学を学びながら、思考することの大切さを再認識しましょう。

偉人の生涯



Hannah Arendt 1906～1975 ドイツ 政治哲学者

主 著 『 』 『人間の条件』 『エルサレムのアイヒマン』

Keyword 「 全体主義とは 」 「 自覚のない悪 」 「 思考を止めるな 」

西 暦	年齢	生 涯
1906	0	ドイツのハノーファー近郊のリンデンで、裕福なユダヤ人家庭の一人娘として生まれる
1913	7	父パウルが死去したため、母マルタの手で育てられる(母は1929年に再婚)
1913－ 1924		勉学は優秀であったが、若い高校教師の授業をボイコットし退学処分…。しかし、独学と家庭教師により、ベルリン大学の入学許可証を取得
1933－ 1940	27	ヒトラーがドイツ政権を掌握 ドイツの市民権を剥奪されたため、母とともにパリへ亡命
1948	42	ユダヤ人国家[]が建国される
1951	45	『わが時代の重荷』、『]を出版
1958	52	『]として出版
1975	69	心臓発作によりニューヨークの自宅で死去

[参考]: ハンナ・アーレントの名言からの学び (<https://tomo8language.com/hannah-arendt/>)



偉人の功績・思想

★「全体主義の起源」

全体主義とは、個人の利益より全体の利益を優先し、
個人が全体のために従属しなければならないとする思想のこと

ナチスドイツは、600万人ともいわれるユダヤ人を大虐殺（ホロコースト）しましたが、なぜそれほどの過激なことを行うことができたのか、それを解明しようとしたのがこの本です。

全体主義とは右上の通りです。一般的な民主主義とは異なり、強い権力が国家を支配しています。

この思想の下では、国家のために国民が動員される体制も正当化されてしまいます。

ではなぜ、このような考え方が生まれてしまったのでしょうか？



全体主義はこのように生まれる

- ☑ []: 近代化の進展によって所属するコミュニティから漏れた人々が社会の中で原子のようにバラバラになっていること
- ☑ []: ユダヤ人を異分子として排除しようとする思想のこと
- ☑ []: 富を求めて他国を侵略し、植民地化していく思想のこと

アトム化が進むと…

社会不安（不況）が増大すると、拠り所をもたない人は [] をもとめる

第一次世界大戦後のドイツでは、「多額の賠償金」「世界恐慌による失業者の増大」などの多くの問題が…こうした中で、明快なイデオロギーをもったナチスが登場し、人々はこうした思想にすがるように。

ナチスの提示:「ユダヤ人が世界経済を支配しているため、ユダヤ人を絶滅させればことがドイツの状況を打ち破る唯一の方法なのだ！」

反ユダヤ主義とは…

ユダヤ人を異分子として排除しようとする思想のこと

⇒ドイツはこれまでいくつかの領土を抱えた国であり、一国としてのまとまりは強くなかった。

その中で、「私たちはドイツ人」という強い意識を作るために、国内に存在しているドイツ人ではないユダヤ人を異分子として認識し、ドイツ人としての結束力を高めようとした

帝国主義とは…

富を求めて他国を侵略し、植民地化していく思想のこと

⇒他国を侵略するようになると、「ドイツ人が人種的に優れている」という [] が生まれる。

そうすると、「人種的に劣っているユダヤ人を追い出そう」といった思想に発展する

『全体主義の起源』で述べたアーレントの主張



偉人から学ぶこと



★「エルサレムのアイヒマン」

アドルフ・アイヒマンは、ホロコーストを指揮する立場におり 1960 年に捕まるまで逃亡していた人物です。1961 年からイスラエルで裁判が行われ、アーレントはその裁判を傍聴しにいき、書籍にまとめています。



「アイヒマンは大犯罪を犯すような巨悪的な人物ではなく、自身の出世にしか興味なかった」

なぜそんな人物が数百万人もの虐殺を指揮できたのか？



ナチス支配下のドイツでは、多くの人々がユダヤ人の虐殺を知りながら、現実から目を背け、保身に走り、上層部の命令に従うだけとなっていました。



Work アイヒマンの行動は“無知としての罪”ではないのか…。

アーレントの言う、「思考」を止めて行動することがいかに危険な行為であるのかがよくわかる例だと思います。しかし、こうした行動は決してアイヒマンやナチスだけの行動ではないはずです。おそらく世の中にこうした行動がいくつも見られ、なんなら皆さん自身の中にもあるのではないのでしょうか。「思考」を止め、無意識の中でやっつけてしまっている行動を書き出してみよう。

(+ α : どのように考え行動することが良いのだろうか)

自分の意見

他者の意見

-
-
-

Think 🖋️ ハンナ・アーレントらしい言葉を紹介！

ここまでの学習を通して、2つの名言の [] に適する語句を予想してみましょう

① []とは、注意深く直面し抵抗すること

② 「私が望むのは、[]ことで人間が強くなることです。危機的状態にあっても、考え抜くことで“破滅”に陥らないように」

アーレントが言うには、思考をもたない人は…

「人として弱くなっていく」⇒ **自覚のない悪へ**（組織である全体主義の恐ろしさ）

column 📖 「ハンナアーレントによる分析」～思考を止めることの恐ろしさ～

全員一度読んでください

ナチスが企てたホロコーストの犠牲者はおよそ 600 万人とも言われている。なぜナチスはそのような行動に出たのか、それは当時、世界恐慌によりドイツ経済は大打撃を受け、苦しみ、悲しみなどといった人々の負の感情で溢れていた。そうしたマイナスな気持ちが [] の掲げた「強いドイツを取り戻す」に魅了されてしまったから。

その思想は過激さを増し、ドイツが弱っている原因をユダヤ人にあると決めつけて、それを絶滅させる暴挙に走った。そして、アイヒマンのように上からの命令であれば無意識に暴挙に加担する者も少なくなかった。強力な世界観を提唱した [] であるが、彼が創り上げたのは無知と無思想の人々である。「なんとなく」で物事を捉え、行動し、周りに流されていくようなことはあってはならない。

何を考え、何を大切に、どう生きていきたいのか

述べてきたことは、当時のドイツだけではなく、政治に興味を失いつつある現代にも言えることである。無自覚な行動により、多くの犠牲者を出した歴史に学び、常識や周りの意見だけを鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て、感じて、考えることが大切である。

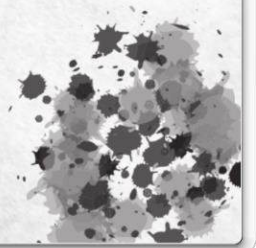
考えるのを止めたら、人間じゃなくなる





ハンナ・アーレント

～ 無知は罪となりうる ～



時代背景

本日勉強するのは「ハンナ・アーレント」(Hannah Arendt/1906-1975年)です。おそらくほとんどの生徒が聞き馴染みがないのではないかと思います。

最初に聞きますが、みなさんは普段から【思考】していますか？先生や保護者から当たり前のように指示をもらい生活していないでしょうか？先生の言ったことが必ず正解だと思っていないですか？アーレントはこうした【思考】をしていない人に強く響く人物だと思い今回取り上げてみることにしました。

時代は20世紀中ごろ、ドイツではヒトラーが台頭し、ユダヤ人に対する集団虐殺【ホロコースト】を行いました。そこでユダヤ人として生まれたアーレントが、ドイツのナチス・全体主義の研究を行い、ホロコースト(集団虐殺)にいたる背景を哲学的視点から考察しています。アーレント哲学を学びながら、思考することの大切さを再認識しましょう。

偉人の生涯



Hannah Arendt 1906～1975 ドイツ 政治哲学者

主 著 『全体主義の起源』 『人間の条件』 『エルサレムのアイヒマン』

Keyword 「全体主義とは」「自覚のない悪」「思考を止めるな」

西 暦	年齢	生涯
1906	0	ドイツのハノーファー近郊のリンデンで、裕福なユダヤ人家庭の一人娘として生まれる
1913	7	父パウルが死去したため、母マルタの手で育てられる(母は1929年に再婚)
1913－ 1924		勉学は優秀であったが、若い高校教師の授業をボイコットし退学処分…。しかし、独学と家庭教師により、ベルリン大学の入学許可証を取得
1933－ 1940	27	ヒトラーがドイツ政権を掌握 ドイツの市民権を剥奪されたため、母とともにパリへ亡命
1948	42	ユダヤ人国家【イスラエル】が建国される
1951	45	『わが時代の重荷』、『全体主義の起源』を出版
1958	52	『人間の条件』として出版
1975	69	心臓発作によりニューヨークの自宅で死去

[参考]: ハンナ・アーレントの名言からの学び (<https://tomo8language.com/hannah-arendt/>)



偉人の功績・思想

★「全体主義の起源」

全体主義とは、個人の利益より全体の利益を優先し、
個人が全体のために従属しなければならないとする思想のこと

ナチスドイツは、600万人ともいわれるユダヤ人を大虐殺（ホロコースト）しましたが、なぜそれほどの過激なことを行うことができたのか、それを解明しようとしたのがこの本です。

全体主義とは右上の通りです。一般的な民主主義とは異なり、強い権力が国家を支配しています。

この思想の下では、国家のために国民が動員される体制も正当化されてしまいます。

ではなぜ、このような考え方が生まれてしまったのでしょうか？



全体主義はこのように生まれる

- ☑ [**アトム化**] : 近代化の進展によって所属するコミュニティから漏れた人々が社会の中で原子のようにバラバラになっていること
- ☑ [**反ユダヤ主義**] : ユダヤ人を異分子として排除しようとする思想のこと
- ☑ [**帝国主義**] : 富を求めて他国を侵略し、植民地化していく思想のこと

アトム化が進むと…

社会不安（不況）が増大すると、抛り所をもたない人は [**権力**] をもとめる

第一次世界大戦後のドイツでは、「多額の賠償金」「世界恐慌による失業者の増大」などの多くの問題が…こうした中で、明快なイデオロギーをもったナチスが登場し、人々はこうした思想にすがるように。

ナチスの提示:「ユダヤ人が世界経済を支配しているため、ユダヤ人を絶滅させればことが
ドイツの状況を打ち破る唯一の方法なのだ！」

反ユダヤ主義とは…

ユダヤ人を異分子として排除しようとする思想のこと

⇒ドイツはこれまでいくつかの領土を抱えた国であり、一国としてのまとまりは強くなかった。

その中で、「私たちはドイツ人」という強い意識を作るために、国内に存在しているドイツ人ではないユダヤ人を異分子として認識し、ドイツ人としての結束力を高めようとした

帝国主義とは…

富を求めて他国を侵略し、植民地化していく思想のこと

⇒他国を侵略するようになると、「ドイツ人が人種的に優れている」という [**優生思想**] が生まれる。

そうすると、「人種的に劣っているユダヤ人を追い出そう」といった思想に発展する

『全体主義の起源』で述べたアーレントの主張

アトム化し不安定になった社会で、反ユダヤ主義、帝国主義思想が蔓延した結果、全体主義にすがりつきたい国民の思想がユダヤ人の大虐殺に繋がった



偉人から学ぶこと



★「エルサレムのアイヒマン」

アドルフ・アイヒマンは、ホロコーストを指揮する立場におり 1960 年に捕まるまで逃亡していた人物です。1961 年からイスラエルで裁判が行われ、アーレントはその裁判を傍聴しにいき、書籍にまとめています。



「アイヒマンは大犯罪を犯すような巨悪的な人物ではなく、自身の出世にしか興味かなかった」

なぜそんな人物が数百万人もの虐殺を指揮できたのか？



当時のドイツでは虐殺が、日常的に行われており、アイヒマンは上層部の指示に従っただけという認識から、まったく罪悪感を感じていなかったため。

ナチス支配下のドイツでは、多くの人々がユダヤ人の虐殺を知りながら、現実から目を背け、保身に走り、上層部の命令に従うだけとなっていました。



Work アイヒマンの行動は“無知としての罪”ではないのか…。

アーレントの言う、「思考」を止めて行動することがいかに危険な行為であるのかがよくわかる例だと思います。しかし、こうした行動は決してアイヒマンやナチスだけの行動ではないはずです。おそらく世の中にこうした行動がいくつも見られ、なんなら皆さん自身の中にもあるのではないのでしょうか。「思考」を止め、無意識の中でやっつけてしまっている行動を書き出してみよう。

(+ α : どのように考え行動することが良いのだろうか)

自分の意見

他者の意見

-
-
-

Think 🖋️ ハンナ・アーレントらしい言葉を紹介！

ここまでの学習を通して、2つの名言の [] に適する語句を予想してみましょう

① [**考える**]とは、注意深く直面し抵抗すること

② 「私が望むのは、[**考える**]ことで人間が強くなることです。危機的状態にあっても、考え抜くことで“破滅”に陥らないように」

アーレントが言うには、思考をもたない人は…

「人として弱くなっていく」 ⇒ **自覚のない悪へ**（組織である全体主義の恐ろしさ）

column 📖 「ハンナアーレントによる分析」～思考を止めることの恐ろしさ～

全員一度読んでください

ナチスが企てたホロコーストの犠牲者はおよそ 600 万人とも言われている。なぜナチスはそのような行動に出たのか、それは当時、世界恐慌によりドイツ経済は大打撃を受け、苦しみ、悲しみなどといった人々の負の感情で溢れていた。そうしたマイナスな気持ちが [**ヒトラー**] の掲げた「強いドイツを取り戻す」に魅了されてしまったから。

その思想は過激さを増し、ドイツが弱っている原因をユダヤ人にあると決めつけて、それを絶滅させる暴挙に走った。そして、アイヒマンのように上からの命令であれば無意識に暴挙に加担する者も少なくなかった。強力な世界観を提唱した [**ヒトラー**] であるが、彼が創り上げたのは無知と無思想の人々である。「なんとなく」で物事を捉え、行動し、周りに流されていくようなことはあってはならない。

何を考え、何を大切に、どう生きていきたいのか

述べてきたことは、当時のドイツだけではなく、政治に興味を失いつつある現代にも言えることである。無自覚な行動により、多くの犠牲者を出した歴史に学び、常識や周りの意見だけを鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て、感じて、考えることが大切である。

考えるのを止めたら、人間じゃなくなる

